

社会言語学概論

単位数	2
開講時期	前期

授業の目的および概要

ことばと社会の密接で規則的な関係を解き明かす

私たちが日常、何気なく用いている言語には、「バリエーション」(変異)と呼ばれる言語運用上の「ゆれ」が付き物である。社会言語学という学問は、話者にとっては無意識的なこの「ゆれ」を科学的に調べ、「ゆれ」に隠された規則性や秩序を、社会構造や文化的背景、話者個々人の社会生活やアイデンティティ、言語の使用場面や話者の意図などとの係わりで解明することを目的としている。

社会言語学における既存の研究成果は英米語に関するものがほとんどであるので、私たちの身の周りで日常的に観察される様々な日本語での事象も取り上げ、比較検討しながら理解を深めていきたい。

授業方法

毎時間、パワーポイントを用いて講義を行う。講義内容を項目立てしたプリントを講義開始時に配布し、講義ノートとして活用してもらおう。また、一方的な講義だけではなく、適宜、テキスト内容に関する学生発表(立候補制)、グループディスカッションの機会をできるだけ多く設け、学生参加型の授業を展開する。学期末には「まとめテスト」を行う。

到達目標

入門書を読みながら社会言語学の全体像や学問的意義を把握してもらい、社会言語学的視点から言語を研究していくことの面白さや醍醐味を発見してもらおうこと。

授業計画

1. オリエンテーション、社会言語学的アプローチとは
2. 日本語の地域差
3. 英語の地域差
4. 言語の社会階層差
5. 言語変異と社会網
6. 言語の人種・民族差
7. 英語の性差
8. 日本語の性差
9. 言語の年齢差
10. 言語変化
11. 伝達能力
12. ことばのスタイル
13. 談話分析
14. 会話スタイル
15. 全体の総括と試験

成績評価方法

出欠状況と学期末の「まとめテスト」で総合的に評価する。立候補制で学生発表を行ってくれた学生には加点をする。

準備学習

言語に関する本をたくさん読んでおくこと。

教科書参考書

(教科書: 全員必須) 日比谷潤子(編著)(2012)『はじめて学ぶ社会言語学』ミネルヴァ書房
(参考書) 田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待』ミネルヴァ書房、『応用言語学事典』研究社、P. トラッドギル著『言語と社会』岩波新書、鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書

注意事項

初回の講義では重要事項についての説明があるので絶対に欠席しないこと。